

モモの新品種とその特性

農林省果樹試験場

吉田 雅夫

● はじめに

モモは夏のくだものとしての価値が高く、初夏から晩夏にわたって店頭をにぎわしている。社会生活の変化から商品については、高級化、個性化、多様化が叫ばれているが、モモの品種についても同じような傾向がみられる。

栽培しやすく、品質の良いものが要求されるのはいつの時代も同じであるが、最近の生食用モモについては、個性的なものが要求されるようになり、進物用の白肉桃や風味濃厚なネクタリンが注目されるようになってきた。

一方、モモは用途が広く、加工原料としても重要である。黄肉種だけでなく、白肉種も輸出用として価値があるため、一部では注目されている。

こういう状況を考えたうえで、現在の主要品種と最近話題になっている品種を紹介したい。

● 新品種の特性

1. 生食用モモ

現在栽培されている生食用モモ品種の特性は、第1表に示すとおりである。熟期は6月中・下旬から8月中・下旬にわたってあるが、いずれも白

肉で、酸味は少なく、たべやすいものが多い。しかし早生種については、年により甘味が少なくなるので品質にふれがみられる。

栽培性についてみれば、いずれも東洋系の性質が強く、耐病性もあり、栽培しやすいが、花粉のないものが多く、受粉樹を混植するか人工受粉が必要になる。最近、話題になっている品種としては次のものがある。

(1) 松森早生

山梨県東八代郡八代町米倉の松森美富氏が、自園で発見した品種で、「白鳳」より一週間早く熟し、経済的価値も高いので、昭和43年種苗名称登録された。

樹姿やや直立性で樹勢強い。花芽の着生良好で花粉あり、結実良好である。果実は円形、150~200gくらい、果皮の着色さわめて良好。白肉、肉質軟いが日持性良好である。甘味中~やや多、酸味は微、品質中位である。粘核で核割れ少。熟期は早生と中生の中間、「白鳳」より1週早く、「大和早生」と同時期である。

小果になりやすいので摘果に注意するが、大果にしすぎると肉質が粗くなり、品質も淡白になる。黒星病、灰星病に対する抵抗性は普通だが、細菌性せん孔病には弱いので、風当たりの強くないところに栽植すべきである。無袋栽培可能で「大和早生」より栽培しやすく、商品としても扱いやすい。

(2) 西野白桃

山梨県中巨摩郡白根町西野の芦沢達雄氏が、自

第1表 生食用モモ主要品種の特性

品 種	熟 期 (平塚)	果 実 の 特 性							樹 の 特 性		
		大きさ	果肉色	肉 質	甘味	酸味	核の粘離	日持性	樹姿	花芽着生	花粉の有無
布目早生	6月下旬	中	白	軟、中	やや少	少	半離	やや良	中	多	有
砂子早生	6 下	中、大	白	軟、中	やや少	微	粘	やや良	やや開	やや多	無
倉方早生	6下~7上	中	白	軟やや粗	やや少	少	粘	良	やや直	やや多	無
大和早生	7上~中	大	白	軟、中	やや少	少	粘	不良	中	多	無
松森早生	7上~中	中、小	白	軟、中	中	微	粘	良	中	多	有
白 鳳	7 中	中	白	軟、密	多	微	粘	良	中	多	有
箕島白桃	7 中	中	白	軟、中	中	少	粘	やや良	開	多	無
大久保	7 下	大	白	軟、中	中	少	粘	良	開	多	有
大和白桃	7 下	中、大	白	軟、密	多	少	粘	やや不良	やや開	多	有
清水白桃	8 上	中、大	白	軟、密	多	微	粘	やや不良	やや開	多	有
高陽白桃	8 上	大	白	軟、密	多	少	粘	良	中	やや多	無
中津白桃	8 上	大	白	軟、密	多	中	粘	良	やや開	多	無
西野白桃	8 上	大	白	軟、密	多	微	粘	良	中	多	無
愛知白桃	8 上	大	白	軟、中	多	少	粘	良	やや開	多	有
白 桃	8 中	大	白	軟、密	多	少	粘	良	開	多	無

園で発見した品種で、品質がきわめてすぐれるため、昭和42年種苗名称登録された。

樹はやや開張性で樹勢はやや強い。花芽の着生は良好だが、花粉がないので、受粉樹を混植するか、人工受粉をする必要がある。

果実は円形、250~320gくらい、大果で玉ぞろい良好である。果皮の着色はやや少ないが外観良好である。白肉、肉質は柔軟多汁、甘味きわめて多く、品質優秀である。日持性はやや良好だが、「白桃」ほどではない。

熟期は中生と晩生の中間、「高陽白桃」、「中津白桃」と同時期に熟す。高級品種として集約栽培に向くと思われる。

(3) 清水白桃

岡山県御津郡菟町字清水で発見された「白桃」の実生で、岡山県を中心に進物用品種として栽培されている。

樹勢やや弱い、花粉はあり、結実良好である。果実は白肉、肉質柔軟多汁で甘味きわめて多く、酸味微、品質良好である。日持性がやや不良なので、都市近郊で進物用として栽培するのに適する。無袋栽培では着色やや不良で、夜蛾の被害を受けるところでは、有袋栽培を行う必要がある

2. ネクタリン

古い品種は黒星病に弱く裂果しやすい。また日持性も劣るため、栽培適地も限られていたが、最近の品種は大果で外観も美しく、日持性も良好である。その主なものを第2表に示す。

(1) NJN 17

アメリカ、ニュージャージー州で育成された品

種で、戦後わが国に導入された。

樹勢強く直立性、花芽の着生少なく、結実やや不安定である。果実は短楕円形、200gをこえる大果、果皮の着色良好、裂果なし。

黄肉、甘味多、酸味多、風味濃厚、日持良好、離核、8月中旬に熟す。間引きせん定を中心に行い樹勢を落ち着かせ、結果の安定をはかる。品質よりみて、暖地で栽培すべきである。

(2) 秀峰

長野県上田市大字古里の、曾根悦夫氏の自園で発見された晩生ネクタリンで、昭和45年種苗名称登録された。

樹勢中で、開張性、花芽の着生良好で花粉あり開花期早い。果実円形、240gくらいの果、果皮の着色中位、外観良好、黄肉で肉質しまり、日持良好。甘味多、酸味やや少、半粘核、品質良好。極晩生種で「興津」より20日おそく熟す。台風や虫害の多い地域と寒地は栽培不適と思われる。

3. かん詰用モモ

かん詰専用種の特性は、第3表の通りである。

(1) シルバー・スター

岡山県農業試験場で育成された、白肉のかん詰専用種である。「明星」×(山下×Sims)-55、昭和45年命名発表される。樹勢強く直立性、結実性良好。果実は楕円形、大きさ中。白肉で紅色素少、肉質ゴム質、酸味やや多、香気微有、粘核、かん詰製品の品質良好である。完熟すると乳白色になる。熟期は中生、「大久保」とほぼ同時期に熟す。無袋栽培可能であるが、夜蛾の被害のあるところは有袋にする。

第2表 ネクタリン主要品種の特性

品 種	熟 期 (平塚)	果 実 の 特 性								栽 培 性	
		大きさ	果肉色	肉 質	甘味	酸味	核の粘離	日持性	品質	結実性	耐病性など
早生ネクタリン	7中~下	中	黄	軟、中	中	多	離	不良	中	やや良	黒星病に弱い
興 津	8 上	大	黄	軟、中	中	多	離	不良	良	良	"
N J N 17	8上~中	大	黄	軟、やや密	多	多	離	良	良	やや不良	黒星病に強い
秀 峰	8下~9上	大	黄	軟、やや密	多	中	半粘	良	良	やや良	"

第3表 かん詰用主要品種の特性

品 種	熟 期 (平塚)	果 実 の 特 性						製 品 質	栽 培 性	
		大きさ	果肉色	肉 質	紅色素	酸味	核の粘離		結実性	耐病虫性など
錦	7 中	やや小	橙黄	ゴム質	少	中	粘	中、上	良	無袋栽培可能
岳 桃 2 号	7 下	やや大	黄	"	中	多	"	中、下	やや不良	"
岳 明	7 下	やや大	やや濃黄	"	少	中	"	中	良	"
シルバースター	7 下	中	白	"	少	中	"	中、上	やや良	"
岳 桃 5 号	7下~8上	中	やや濃黄	"	中	やや少	"	上	やや不良	夜蛾の被害あり
岳 桃 12 号	8 中	中	橙黄	"	少	中	"	中、上	良	"
岳 桃 14 号	8 中	大	"	"	少	中	"	中、上	良	"